
既存カルシミメティクス製剤から新規カルシミメティクス製剤(ウパカルセト)変更時の臨床的特徴

医療法人衆和会 長崎腎クリニック

○橋口純一郎 河津多代 澤瀬健次 前川明洋 船越 哲

【目的】

現在4剤が上市されているカルシミメティクス製剤の剤型以外での臨床的特徴を明らかにする

【対象】

二次正副甲状腺機能亢進症に対してエボカルセトおよびエテルカルセチドを1年以上使用している外来透析患者で、ウパカルセト変更に同意を得た150名

【方法】

エボカルセトおよびエテルカルセチドの投与量にかかわらず、ウパカルセト 25-50 μ に変更。観察項目は、主作用の評価でiPTH、主な副作用であるCa値と消化器症状(GNRI)の測定の他に、骨代謝マーカー・骨密度(DIP法)・FGF23の推移を調べた。

【結果】

エボカルセト1mg \rightleftharpoons ウパカルセト25mg、エテルカルセチド5mg \rightleftharpoons ウパカルセト100mgで切り替えが可能だった。Ca値は、エテルカルセチドから切り替え時に軽度低下した。骨塩量はエボカルセトから切り替え時に低下した。FGF23は、どちらの薬剤からの切り替えでも変化はなかった。

【考察】

現在上市されているカルシミメティクスは受容体結合部位・投与経路・投与間隔・薬剤除去率などが違い、同じ系統だが別の薬剤ととらえる必要がある。